

令和2年度 いじめ未然防止 活動のマトリクス 網掛け分が今年重点

	ア 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等の教科・領域の関連を図ったプログラム	イ 子ども会議等の児童会・生徒会活動との関連を図ったプログラム	ウ 社会教育（家庭や地域）と連携した体験活動との関連を図ったプログラム	エ（その他）道徳教育・人権教育・情報モラル教育等との関連を図ったプログラム
① 居場所づくり 教師が主体	【A 挨拶・言葉遣い指導】 ・挨拶や言葉遣いの指導によって良好な人間関係を築く。強化月間を設定し定着を図る。	【D 教育相談】 ・全児童に教育相談を実施し、実態を把握するとともに、児童会活動などを通して改善を図る。自己有用感を持つ児童会活動など居場所作りにつなげる。	【G 異世代交流】 ・低学年におけるやすらぎ園（老人福祉施設）での学芸会の演目披露や生活科の時間を使った幼保交流。中学年でたんちょう大学（老人会）交流を通して地域とのつながりを広げる。	【J 道徳教育の充実】 ・①いじめとは何か、いじめは絶対許されないことだと分かる、②いじめ根絶の意識を高める内容の道徳を実施する。道徳を中核に全教育活動を通して指導する。
② 絆づくり 児童が主体	【B 縦割り活動の充実】 ・異年齢集団での人間関係の構築、リーダーシップの発揮をねらい、縦割り班で日常活動を行う。 ・清掃・遊び・行事など。	【E いじめ根絶子ども会議（町教委主催）参加】 ・いじめ防止のために取り組んできた縦割り遊びや標語づくりなどを発表、交流し取組の充実を図る。	【H いじめ根絶子ども会議（町教委主催）】 ・町内の児童会・生徒会代表が集まり、自校のいじめ対策について交流する。	【K 高学年による1年生のお世話活動】 ・4月から5月の期間を中心に6年生が朝の活動、仕度などの世話をを行う。自己有用感や最高学年としての意識を高める。 ・5年生による新1年生1日入学時の交流。
③ 環境づくり いずれかが主体	【C 教育環境の充実】 ・児童の実態に合わせた教室掲示などユニバーサルデザイン化。全校で統一した学習の決まりの指導することで安心して過ごせる環境を作る。	【F いじめ未然防止に関わる取り組み】 ・いじめ根絶に関する取り組みについて学年ごとに話し合っって主体的に決めて活動する。	【I 挨拶声掛けいじめ根絶標語ポスターへの応募（町育成協主催）】 ・挨拶励行やいじめ根絶のための標語やポスターを作成してコンクールに応募する。	【L ありがとうボックス】 ・人間関係構築を目指し取り組んだ「ありがとうボックス」に投函されたメッセージや行動宣言、標語を校内に掲示し意識を高める。

↔ は、活動のつながりを示しています。